

生き生き

# TUMA つま



平成26年5月14日 活き生きTUMA協議会の総会が終わりました。本年度もより元気な津万地区を目指しての活動が始まっています。皆さんのご協力をよろしくお願ひします。



## ごあいさつ



会長 藤原 功

初夏の候、津万地区の皆様方には、益々ご健勝のことと心よりお喜び申しあげます。

さて、活き生きTUMA協議会は津万地区住民の交流の輪を広げ、住民自らが「人が元気、自然が元気、まちが元気なふるさとづくり」を推進するため、平成19年に設置され、本年で8年目になります。

津万地域の交流の輪を広げ、住みよい、くらしやすい、まちづくりをめざして、広報研修部、生活環境部、文化体育部を設置し活動しています。また、津万地域の各種行事への協力などの活動もしています。多くのことはできないまでも、一歩のスタートから、様々な活動が進められてきました。その流れを受けつき、活き生きTUMAの活動が充実し、成果があがるように努めてまいりたいと考えています。

そのためには、多くの皆さんにこの活動に参加いただき多くの交流が図られることが大切なことだと思います。

少子高齢化が進んでいるおり、地域を活性化させる材料に乏しい状況のなか、私たち津万地域の住民は、自分たちの持っている小さな力を集めて活き生きとしたまちづくり、ふるさとづくりをしていくことが必要なではないでしょうか。

本年度の活き生きTUMA協議会の活動が成果あるものになりますよう、皆さんのが行事への積極的な参加をよろしくお願ひいたします。



副会長 岸本信子

「元氣が一番」先輩から贈られた言葉で、私の座右の銘です。「氣」は、中に八十八日かけてできる米の氣を使うようにという注釈付きでいただきました。

『人も地域も元気な津万地区にしたい』というまちづくりの趣旨に賛同し、そして、「元氣が一番」という先輩の言葉を胸に刻みながら関わって参りました。その間、魅力溢れる皆様方にお出会いすることができました。委員の皆様はもとより、取材でお会いした皆様方の『元氣』をいただき、津万地区の魅力を発見できた日々でした。

しかし、副会長という大役をお引き受けするのは、随分おこがましいことだと思います。なんなく見ていたことが、自分の身に降りかかる初めて、「大好きだけではすまない」という現実が見えてきました。幸いなことに、退任された吉川前副会長も協力員として残られます。また、役員のチームワークの良さも心強い限りです。

さらに、地域の皆様のご支援・ご協力を得て、なんとか職責を全うしたいと思っています。  
『今が一番若い時』とがんばります。よろしくお願ひします。



副報研修部 副部長 藤井照通

昨年から広報研修部会でお世話になり、このたび広報研修部の副部長として活動することになりました藤井です。

広報研修部会は、広報紙の発行(年3回)と講演会を担当しています。広報紙については、地域の皆さんに津万地区をもっと知ってもらうと各町で昔から伝わっている行事や明るいニュース、ボランティア活動等様々な内容の記事を皆さんからお待ちしています。

津万地域には、北はりま田園空間博物館、西脇公園、あじさい園、プール、野球場、テニスコートなどがあり、また東側には加古川が、そしてへそ公園も近く静かな地域で自然環境に恵まれています。

活き生きTUMAの目標である「人が元気、自然が元気、まちが元気な私たちのふるさと」を実現するために、高齢者、障害者にも暮らしやすい環境、子供が遊べて子育てがしやすい環境、犯罪がなく災害に強い安全な環境、身近に活気ある商業地域がある環境、緑や水など自然に親しめる環境、美しい景観や歴史・文化を生かした環境づくりを目指して津万地域のために頑張りたいと思います。

皆さんのご意見、ご協力を願っています。

## 平成26年度活き生きTUMA協議会活動計画

### 【全体会】

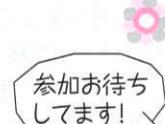
- ・天神池に鯉のぼりを揚げよう(4月26日～5月10日)
- ・都麻の郷あじさいまつり(6月22日)
- ・西脇子午線マラソン「へその市」出店

### 【広報研修部会】

- ・広報誌「広報誌活き生きTUMA」発行(年3回)
- ・講演会

### 【生活環境部会】

- ・クリーン作戦
- ・防災講習会



### 【文化体育部会】

- ・八日山つつじ花見登山(4月27日)
- ・津万の郷ウオーカラリー(11月9日)
- ・八日山登山整備(毎月第3日曜実施)



### 【あじさいクラブ】

- ・あじさい苗の育成・栽培 (希望者)

### お知らせ

## あじさいクラブ活動開始

見えるまちづくり、「この津万地区をあじさいの花いっぱいに」を合言葉にあじさいの挿し木をはじめ育苗等について話し合われた。

### 今後の作業の予定

- ・7月13日(日) 挿し木(あじさい園)  
その挿し木をそれぞれが持ち帰り、この夏の育苗に専念する
- ・9月7日(日) 大きなポットに植え替える  
(大野隣保館)

このあじさいクラブは気楽にできる範囲でやろうとしているので、どなたでも大歓迎。あなたも一緒にやりませんか。



## 西脇小学校のルーツが津万地区に



島平野邸に残る石碑



(明治25年から明治34年)  
多可第二高等小学校跡

津万地区のあちこちに、「学校跡」という石碑を発見。島に「物則小学校」、蒲江に「多可第二高等小学校」というもの。さっそく、郷土資料館で調べた。

明治5年に、「これまでの寺子屋を廃し、学校を作れ」という学制が発布された。ところが、校舎を造るお金をくれなかった。そこで、お寺や神社、大きい家の一画等を利用して、とにかく学校を作った。

その一つが、島村の「物則小学校」とのこと。現在の西脇小学校は西脇村に「為祥(いしょう)小学校」島に「物則(ぶっそく)小学校」西林寺に「黄丘(こうきゅう)小学校」の3校から始まった。

広報 「なしたまあ。津万地区は、教育熱心やったんやなあ。寺子屋も多かったし、小学校も学制が発布されてすぐ2校もできるなんて。」

脇坂 「いやいや、学校は造ったものの、通えるのはほんの一部の子だけ。当時は子供は働き手だし、受益者負担で文房具から先生の給料まで払える子だけ通えたんじや。野村の雄生簡易小学校は、明治21年児童数58人だが就学猶予上申者は188人、約3倍の子が経済的理由で通えなかつたという記録が残っている。津万地区でも同様だろ。」

広報 「そうだっか。今は、教科書まで無料で、学校に行くのが当たり前という夢のような状況だんなあ。」

脇坂 「物則小学校、と黄丘小学校、が、明治8年に合併し、幅湊(ふくそう)小学校、となった。為祥小学校が明治18年に開性(かいせい)小学校となり、幅湊小学校も開性小学校大垣内支校となつた。その後合併分離を繰り返すが、明治34年に多可第二高等小学校も吸収して津万尋常高等小学校となり、現在の西脇小学校の基となつた。明治23年に教育勅語が出て、次第に整ってきたんじや。」

広報 「しかしあま、誰が付けたか難しい名前ばっかりでんなあ。」

脇坂 「明治初期市内には、和暢(わちょう)還石(げんせき)鶴鳩(しゃつきゅう)青藍(せいらん)など、地域の故事や古い地名からとつたさらに難解な学校名があつたようだ。」

広報 「みんなが学校に行くようになるのは、いつごろでつか。」

脇坂 「明治40年代には、小学校児童の就学率が90%を超えたとある。学制発布から約40年。感慨深いですなあ。」

先日の広報部会で、「蒲江の学校屋敷とよばれる所にある井戸がバイパス工事でなくなるのを惜しみ、石碑を建立。」「それなら島にもあります。」と始めたこの企画。郷土資料館の膨大な資料と脇坂俊夫先生のお話をうかがいましたが、短くまとめることが困難です。さらに、何分古いことも重なり、十分にお伝えできていません。申し訳ありません。

ですが、「邑に不学の戸なく、家に不学の人なからしめんことを期す」の学制発布で、皆教育制度を樹立したことは世界にも誇るべきことでしょう。

## あじさいまつり終わる

都麻の郷 あじさい園

西林寺の山門をくぐり少し歩くと、落ち着いた静かな情景をかもし出すあじさい園がある。あじさいの木は、毎年6月の花の終わった後からも、1本1本ていねいに、やさしく管理されてきた。こんなに清楚で瑞々しい庭はめつたに見られない。庭には今年も美しい花が咲き、訪れる人々をほっとさせてくれた。近くの人々はもちろん、遠くは大阪や姫路、四国等からも観光客が訪れ、駐車場は車でいっぱいになつた。お茶席や手づくり市、大福引き大会、綿菓子等も華を添え、まつりは終わつていった。どうか来年度も乞うご期待!!

あじさい協会(津万地区区長会・活き生きTUMA協議会・西林寺の役員)の皆様方、ほんとうにお世話様でした。



## 絵手紙で繋がる心 大垣内 稲垣菊江さん

ある日、私の家のポストのなかに、真っ赤な苺がおいしそうに描かれたハガキを発見。こんなにも、瑞々しく甘い匂いのする苺は見たことがない。季節をそのまま届けてくれた、うれしい贈り物である。少し疲れていた私の心に元気がもどる。稻垣菊江さん。教職を退いた後、西脇市の青少年センターで適応教室の指導員として、子ども達の心を元気にしてくれたのをはじめ、活き生きTUMAの役員としても頑張ってこられた。そんな多忙な中においても、たくさんの人々と絵手紙を通じて心を繋いで居られる。ここに紹介します。

※適応教室 何らかの理由により学校へ行きたくても行けない子どもたちを預かり、元気を取りもどせるようにする教室



絵手紙と私 私が絵手紙とであったのは、ちょうど10年前の5月。N先生と出会い、N先生の絵手紙に魅せられ、山奥の絵手紙教室へ行くの

が楽しくて楽しくてしよう  
がなかった。絵手紙  
は人ととの出会い  
から始まり、絵  
手紙を交換



し合うことによって心が繋がっていく。絵手紙を交流する友達が身近なところから全国に広がり、絵手紙の魅力にどっぷり。そんな中で、公認講師の資格を取ったはいいが、「自分はどんな教室を創りあげていきたいのか」なかなか見えてこなかった時期があった。ある教室の最初の時間に、「人の心の痛みや喜びを分かち合える教室にしていこう」と話す。そして、「ゆっくり、ゆっくり続いている」と…。

1枚の小さな絵手紙が、教室の生徒さん同士、生徒さんと講師、生徒さんと地域の人と繋いでくれる。いただいた絵手紙にはかかれた人の気持ちがこめられている。元気をいただき、安心をいただき、笑顔をいただく。その気持ちにこたえて、自分も一生懸命、無心になって絵手紙をかく。上手に、きれいに、本物そっくりに描く必要はない。ただ一人の人の思いながら、無心でかく。自分の気持ちちは必ず相手に届くと信じて、ポストイン!

人との出会いを大切に温めていくのは自分で、良き人の出会いは、きっと自分を大きくしてくれる。

今、教室で「孫に出したら喜んでくれた」「夫に出したら大事にしまつていて、時々見ているみたい」「あー、今日も楽しかった」など、嬉しい声を聞くたびに、笑顔になれる私がいる。

稻垣菊江



町づくりの一環として「天神池に鯉のぼりをあげよう」と、今年も区長会と活き生きTUMAにより早朝から作業が行われた。道路建設により変わりゆく津万平野。自分たちの暮らすこの土地が、安全で、より美しく、心安らぐ場所でありたいと願う。これから育ちゆく子どもたちのためにも。

## さわやか 八日山登山

今年も4月27日(日)に恒例の八日山登山を行いました。

登山をされた方々の感想です。

八日山はよく登ります。昨日も孫(そうま君 保育所)と登ったのですよ。途中小学生の女の子3人や二人連れの男女にも出会いました。(小林 勝さん)

おじいちゃん(勝さん)に「走るなよー」と見守られ、そうま君も元気いっぱい!!まわりの高齢者(?)にいっぱい声をかけられながら、つづじ登山に参加してくれました。私たちもその姿を見て元気をいただきました。

妻が以前つづじ登山に参加しました。私もいつか登ったかったのですが、今日初めて登りました。一人で登るより大勢で登る方が楽しいと思って参加させてもらいました。体と相談しながら、ぼちぼちゆっくり登りたいと思います。(笹倉 清さん)

好天に恵まれた山が萌える八日山登山でした。途中の休憩時に市街地を眺めながら頂きをめざし、登頂後ロープに緋鯉を結びつけました。園児がロープを引っ張ると、青空に勢いよく舞い泳ぎ歌聲と拍手。ハーモニカの伴奏で、「こいのぼり」と「故郷」を齊唱しました。お弁当の後ゆっくり下山し、八幡神社で八日山を見上げると、頂に舞い泳ぐ二匹の緋鯉が見え、みんなの顔に満足感がただよっていました。ほんとうに、委員さん方による長年の登山道整備に感謝です。みなさんにも是非お勧めしたいです。(長谷川幸子さん)

